



頭が羽化した。不思議なことに、すべて♂であつた。型は次の通りであつた。

夏型 9頭
 中間型 12頭
 秋型 1頭

♂しか羽化しなかつたが、中間型について述べる。12頭とも翅表も翅裏もあまり変化がなく、それぞれの斑紋もよく似ていた。これは夏型の特徴である。色は第一化夏型のように黒くはなく、薄茶色気味である。第一化夏型♀に近い色である。翅表前翅の小白斑と赤橙色斑に関して

は、小白斑は小さいのが見られる。赤橙色斑は黒色斑紋として現れている。外縁の突出は秋型ほどではないが、はっきりと現れている。秋型の特徴である。翅裏の斑紋は第一化夏型♀に近いが、より明確である。羽の長さ(体長を含む横幅の半分)は

第一化夏型♂10頭の平均 40.1mm
 今回第二化中間型♂10頭の平均 43.2mm

であつた。秋型は中間型よりもさらに長いので、この点でも中間型である。

また今回羽化した第二化夏型♂9頭の羽長の平均は40.7mmだつた。よつて♂については

第一化夏型

第二化夏型

第二化中間型 の順に長くなつている。

今回の飼育結果から判断すると、中間型を経て、夏型から秋型へ少しづつ移行が行われると思われる。夏型は個性が少なく、秋型は個性的である。

(たにがわ だいかい)

編集後記

▽ 遅くなりましたが43号をお届けします。本会も本年で創立30年になります。何か記念事業をと思つていますが、震災の後始末が残つていますのでどうなりますか？
 本年度の会費も2000円です。同封の振替用紙で早めをお願いします。(TB)

PARNASSIUS No.43	
1996年2月19日印刷	1996年2月23日発行
編集者 登日邦明	発行所 淡路昆虫研究会
〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235	
郵便振替 神戸7-49591	
印刷所 れいめい社	
〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24	